

## 言語発達障害研究会 第 90 回定例会報告

日時：2023 年 5 月 27 日（土） 13：00～16：00

場所：オンライン

内容：保護者支援の(面接)経過とその整理方法について

-療育的保護者支援フローモデルを用いた症例報告を通して-

発表者：佐竹恒夫（療育的保護者支援プロジェクト）

島村広美（横浜市総合リハビリテーションセンター）

伊東由紀（西東京市児童発達支援センターひいらぎ）

90 回目の定例会は、療育的保護者支援企画プロジェクトから本定例会 2 回目となる発表があり（1 回目は 2019 年 1 月 第 81 回定例会）、本定例会では保護者支援の(面接)経過とその整理方法に関するモデルと事例報告の発表が行われました。言語聴覚士のほか、教員、心理士、医師の申し込みがあり、当日参加とオンデマンド動画の視聴をあわせて、70 名が参加されました。

### 【発表概要】

はじめに療育的面接・療育的保護者支援とは「療育臨床スタッフが、発達障害児者とその家族に、具体的な関わり方や視点について相談・助言することにより、日常生活における生活のしにくさを軽減・解消するとともに、相互活動の充実を図り、日常生活の質（QOL）の向上に寄与する」と説明がありました。

1) 各セッションの面接記録、2) 経過整理表を用いた記録の整理方法、3) 経過整理表の内容を分析し変化の過程を明らかにする枠組み

として、療育的保護者支援フローモデルが示されました（2019 年定例会にて紹介済み）。療育的保護者支援フローモデルは 6 個の分類タグからなり（2つの 3 点タグセット）、経過整理表の個々の内容に当てはまるタグを貼り付けて分類します。

1 つ目の 3 点セット、相談を受け助言する時には【相談・助言】（【 】内は分類タグ）、課題となる行動が成立する【前段の行動（precursor）】を考え、助言に基づき実施する際の（実施上の）注意事項を示す【禁忌・留意事項】。

2 つ目の 3 点セット、経過をみる時には、行動習得の原則【横への拡大】【縦への上昇（レベルアップ）】で新たな行動の習得過程を把握しそれに伴い生じる【新たな課題】に備える、と具体例を示しながら説明がありました。

療育的保護者支援フローモデルを用いた症例報告の 1 事例目は、難聴児の親の関わり方の支援と絵本活動をテーマにした報告でした。フローモデルでの分析により、支援者の助言による保護者の行動や障害理解の経時的な変化の過程をあきらかにすることができたと述べられました。加えてその分析をもとに、く



セラピストはアセスメントをして保護者と現況を共有し、助言を行い、その助言の実行による子どもの変化を保護者と共有し、保護者の働きかけの変化と子どもの変化を結びつけていく>といった、療育的面接全般に共通する「面談の構造の定式化」が示されました。また絵本活動についての報告の中では療育者は保護者の困り事に対し、生活上の困難さ軽減のための助言とともに子どもの行動の発達的な位置づけや障害との関連を伝え中長期的な見通しを保護者に伝えていくことが必要、と述べられていました。

2事例目は、知的障害、自閉スペクトラム症児の初期発達と保護者への助言の経過についての報告でした。本症例の場合はST訓練が低頻度であり、ST場面や保護者面接だけでなく、グループ療育やOTとの連携によるフォローアップの経過も含めて分析していました。大人の関わり方と子どもの行動を、フローモデルを用いて整理し分析したことで、捉えにくかった子どもや保護者の変化が明確になったという報告がありました。

アフタートークでは発表者のこれまでの経験も踏まえて、保護者面接からの学びや楽しさ、丁寧な面接を積み重ねることや記録の大切さなどが参加者へのメッセージとして伝えられました。



### 【参加者の声】

- 勤務時間内に記録が終わらず、悩みの種でした。今回佐竹先生のご講義を受け、日々の記録は1行、箇条書きを意識して時短を図ることで、臨床の時間を有意義に使いながら、フローモデルを作成して整理したうえで、定期的に他職種とカンファレンスを実施する時間や機会を確保したほうが有意義と気づきました。
- 図「面談の定式化」が非常に興味深かったです。適切に保護者を支援することで、保護者自身の気づきや工夫が生まれ、その中で徐々にお子さんの理解が進み、お子さんの状態や障害の受容につながっていくことを学びました。
- 「保護者の理解を早急に進める必要はなく、まずは保護者と共有できる小さな助言から始めることが大切」というお言葉が印象的でした。
- 低頻度でのフォローアップの難しさは私自身も感じていて、「いつも不全感を感じていた」という先生のコメントにとっても共感しました。

「療育的保護者支援フローモデルを、対応が困難なお子さんを中心に実践したい」「経過をまとめたたいケースがあるので、どんな気づきが得られるだろうとワクワクしています」との感想も寄せられました。